

第 18 回 Jichi Joy Café 開催結果報告



2024 年度テーマ

働き方改革が始まってからの職場づくり

2024 年 7 月 5 日（金）に「第 18 回 Jichi Joy Café」を今回も Zoom にて開催しました。今年度のテーマは、「働き方改革が始まってからの職場づくり」です。

開催内容

佐藤篤子先生の司会のもと、石川由紀子センター長の開会のことばに続き、柳沢佳子先生の発表、渡邊賢治先生の発表（録画）、また参加者によるコメント、フリーディスカッションを行い、小形幸代副センター長の閉会のことばにて終了となりました。

今回は 20 名の方にご参加いただき、医師、看護師、事務(役員含む)、大学院生など多職種の方々に加え、初参加の方もあり多くの方に興味を持って頂けたのではないかと思います。

◆Jichi Joy Cafe参加者データ

性別	人数
女性	14
男性	6
合計	20

職種	人数
教職員(医師)	13
看護学部教員	1
看護職	2
医療技術職	0
事務職	3
大学院生	1
合計	20

これからも Jichi Joy Café では、働き方の多様性について幅広く情報を提供していきたいと考えております。

1. イクメンアンケート結果発表

「イクメン」

男性の容貌が魅力的あることを表す俗語「イケメン」と、「育児」との合成語であるこの言葉は、かつて平成時代の流行語大賞にもランクインし、子育てに前向きな父親像を表す肯定的な言葉として、男性の育児参加促進の気風を背景に広まりました。しかし令和時代に入ると男性の育児休暇取得等の実現の困難さや、「母親の育児ありきのイクメン」といったネガティブな印象が生まれるなど変化しています。

今回の Jichi Joy Café では、2023 年 12 月～2024 年 1 月の間で実施した学内アンケート「イクメンアンケート」でイクメンに対する意見を収集し、がんゲノム医療部の柳沢佳子先生より結果と解析を、また看護学部成人看護学の渡邊賢治先生より自由記述部分の考察結果をご発表頂きました。

■発表「イクメンアンケート～結果と解析～」(がんゲノム医療部 柳沢 佳子先生)

18TH JICHI JOY CAFE



イクメンアンケート結果発表

実施期間：2023年12月1日～2024年1月31日
対象者：全職員
実施主体：自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター

概要

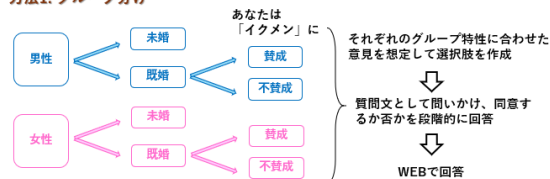
背景

人口の少子高齢化に伴い、労働人口が減少し、出産率の上昇を図ると同時に、労働力としての女性の社会参加も重要となった。そこで男性の家事・育児参加がこれまでに注目されている。政府は「産後パパ育休」制度を施行し、「イクメン」は2010年には流行語大賞にもランクインした。しかし、男性の育児休暇取得は、どの職場においても戦力に影響し、業務分担の調整を必要とする、実現が難しい課題である。

目的

「イクメン」に対する職員の意見を幅広く収集する。難しい課題と認識されていることから、表出しにくいと思われる意見をくみ上げる。

方法1. グループ分け



方法2. 回答者情報

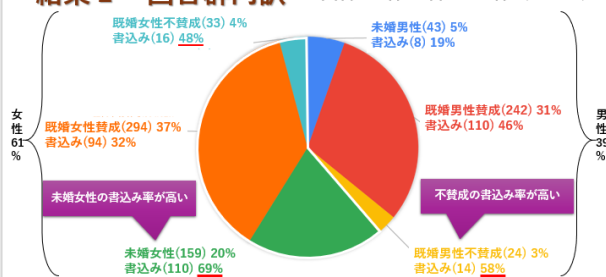
基本的に個人情報収集はしなかったが、

1) 年代と、2) 曖昧に表現した職位 (あなたは職場で①上長や先輩と接する機会が多い、②上長や先輩と、部下や後輩と接する機会と同じくらい、③部下や後輩と接する機会が多い) の2点を収集した。

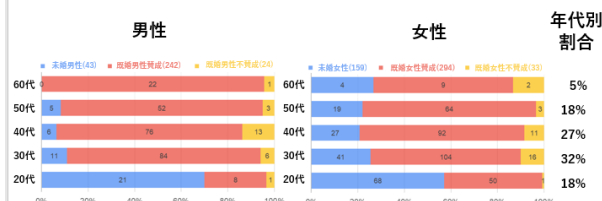
アンケート例

群分け	最初の質問文	回答			
女性未婚	自分自身の収入はキープしたいので、結婚相手にはイクメンしてほしい。	1. 思わない	2	3	4. そう思う
女性既婚イクメン賛成	やっぱり家計のため。子供の学費、自分の小遣い、老後資金・・・自分もフルに働きたい。	1. 思わない	2	3	4. そう思う
女性既婚イクメン不賛成	イクメンも家事も育児もこなしてくれる方がいいが、かえって手間がかかることが多い。	1. 思わない	2	3	4. そう思う
男性未婚	求められたらイクメンやるかもしれない。	1. 思わない	2	3	4. そう思う
男性既婚イクメン賛成	パートナーの所得が家計の助けになる。	1. 思わない	2	3	4. そう思う
男性既婚イクメン不賛成	自分の影響に女性がいても。。イクメンするより、正直、男性に働いてほしい。	1. 思わない	2	3	4. そう思う

結果 1 回答群内訳 全回答795件 全書込267件 (33.6%)

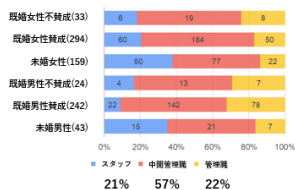


結果 2 年代別回答群内訳



結果3 職位別回答群内訳

注) 質問文: あなたは上長や先輩という時間が長い(自分をスタッフと考えている)
 // 上長や先輩という時間と部下や後輩という時間は同じ(中間管理職と考えている)
 // 部下や後輩という時間が長い(管理職と考えている)



結果4 共通質問に対する各群の回答

共通質問の内容

- 各職場の理解不足: 育児休業制度が各職場で理解されてないのでは?
- 法人として制度整備: 法人として育児休業制度が整備されていないように感じる。
- 人手不足: 人手が不足していてイクメンは難しいのではと感じている。
- 今の職場環境: 今の職場環境だと難しいのでは?
- もっと早く男性参加: 男性の育児・家事参加が社会的にもっと早く取り上げられていればよかったのと感じる。
- 育休一か月以上: 自分が育休を取得するなら1か月以上が妥当だと思う。

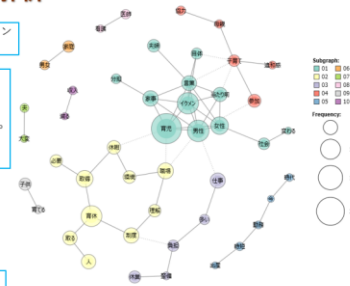
結果5 書込み意見解析

文章の解析を自動で実施するアプリケーション (KH-Coder)

一人分の書き込みを単位として;
 書込み文章を品詞に分解;
 品詞の種類と出現数、品詞間の距離を測定
 イクメンは当たり前。夫婦で分担が当たり前。
 距離1 距離2 出現数2

語同士の関係性を数値化=客観的な傾向

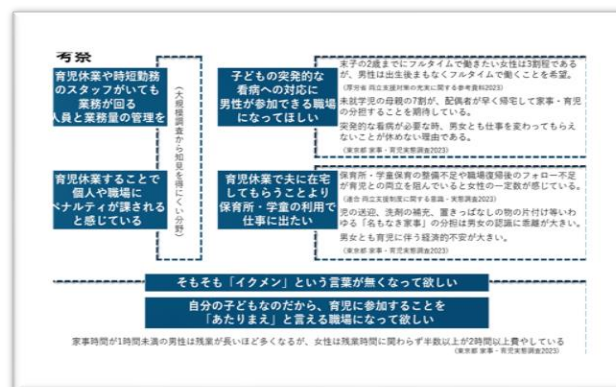
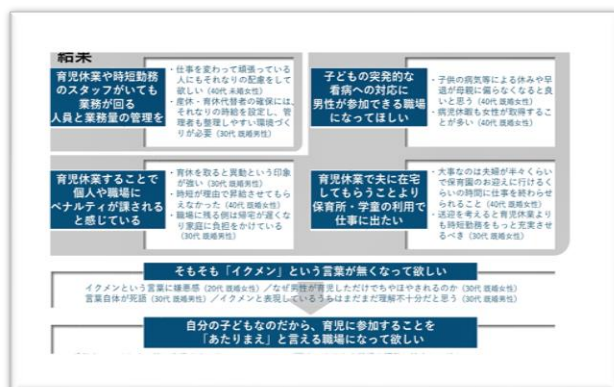
自動で図示=出現頻度と距離から文章を類推

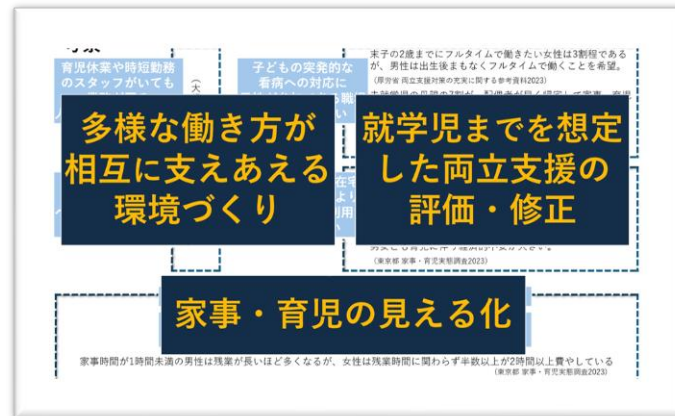


まとめ

- 全職員を対象に「イクメン」に関するアンケートを実施した。
- 715名からの回答、267件の自由記載を回収した。
- 男女、年代、職位を問わず幅広い回答を得られた。
- 「イクメン」に対して賛成できないと答えたグループの主な理由は「人手と、組織としての制度の整備が必要ではないか」だった。
- 自由記載では「そもそも家事も育児も男女が分担して行うもの。イクメンという名称自体、性別役割分業を前提としてないか?」「組織として休業分を負担する側への制度整備が必要ではないか」と言った意見が主であった。

■発表「イクメンアンケート～自由記述部～」(看護学部成人看護学 渡邊賢治先生)





参加者のご意見

- ・現時点での色々な問題点やどんな考えでいるかがわかる貴重なアンケート。ただ育休や時短で人手が少なくなると他の人が負担しなければならないのが難しいと思う。例えば在宅で仕事ができるとか、そういうことがないと難しい。
- ・育児休暇をとっています。イクメン嫌いという言葉もアンケートにありましたが、育児のスタートで躓いてその後も育児に介入できない男性医師もいるのかなという印象を受けた。

2. フリーディスカッション「イクメン」「働き方改革が始まってからの職場づくり」意見交換

Jichi Joy Café の醍醐味ともいえる意見交換の時間。皆様に自由に発言していただきました。

- ・素晴らしいアンケート。全卒業生にも共有したい内容だが職場から家事育児の見える化を勧めるのは違和感も。しかし上司から言われたら当然変わる効果があるので、上手く落とし込めていければと思う
- ・時短ではない先生の負担になっている。これが解決すれば。
- ・皆さんが悩まれているのがわかった。改善していけば。
- ・ちょうど育休中なのですが、周りの先生に負担をかけているのを感じている。私たちは（夫と）二人で育児をスタートできたことは良かった。海外では医者の仕事以外は他の人がやっており、分業ができています。サービスの過剰を落として、タスクシフトができています。
- ・夫がイクメンといわれることを嫌がっていた。職場環境の整備と皆さんの意識改革が大事。
- ・育休や時短がとれる環境がないと難しい。在宅勤務ができるか。制度があっても環境がないとやりにくい。
- ・4月から働き方改革が始まって診療科で時間が短くなることがない。他ではどんな取り組みをしているのか知りたい。

- ・以前は当番や週制で交換対応していたが、今は人がいないと難しい。
- ・SNS を活用してカバーをしあっている。偏りや一方的にならないようにする仕組みが必要。
- ・育休中は働いてはいけませんが、在宅勤務が認められるとできることがあるのではないかと。
- ・外勤をやっているとそれが労働外・週 40 時間を他の 4 日間で勤務しなければならないため朝の 8 時から 10 時間勤務の人がいる。育児中で長く病院にいることが難しい。在宅勤務が診療科でも取り入れられたらと思う。
- ・育児時間ではなく当直免除になっている年代の方の変形労働制の方がいる。学生の教育の準備の時間も仕事になる。残りの時間で 40 時間を割ると、間の休憩時間があるので 8 時までいないと働いたことにならない。医師の労働を減らす目的が一部逆行している。他学だとまた違うのでデータがあれば。
- ・病棟業務を見直しチームを作って分業した。若い先生は余裕ができたが中堅以上の先生にしわ寄せがでてしまった。

第18回 J i c h i J o y C a f e アンケート集計

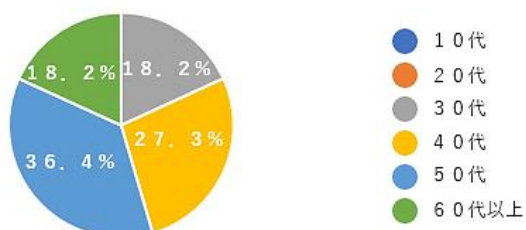
◆Jichi Joy Cafe参加者データ

性別	人数
女性	14
男性	6
合計	20

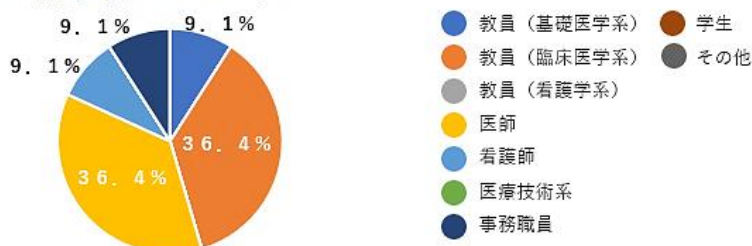
職種	人数
教職員(医師)	13
看護学部教員	1
看護職	2
医療技術職	0
事務職	3
大学院生	1
合計	20

◆参加者アンケート回答者データ（回答数：11）

Q 1：ご自身の年代を選択してください。



Q 2：職種を教えてください。



Q 3：イベントの内容について当てはまるものをお知らせください。



◆『「イクメン」アンケート調査結果発表』で参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- ・先生方の感想が大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・男性も女性も、職場環境を気にして育休を取得しにくいのがわかります。実感としてもそうし、特に男性は未婚のうちからそう思っている人が多いのが興味深かったです。
- ・親なのだから育児に関与するのは当たりまえ、という認識が徐々に広がっていると思いました。ただ、現実的には男性が育休とるのがまだ難しい状況がある、ということもよくわかりました。

- ・途中からの参加となってしまう、アンケートについて殆ど見ていなかったため、手持ちの資料があると分かり易いと思いました。個人的に私も3人の子どもを育て（第2・3子は大学生）たので、アンケートの生の声には共感するものも多数あり、面白く拝見させていただきました。
- ・職種が違った視点のワークライフバランスについて聞ける貴重な経験でした。
- ・イクメン嫌い。アンチが結構強い感情
- ・男性も育休がとりたいけれど、人材不足があることが分かった。
- ・アンケートに回答した人、コメント記載した人が予想以上に多く、職員の関心が高い内容であることが分かりました
- ・人手不足の対策が必要と思いました。
- ・他者の考えが知れたことは良かった。
- ・このアンケートは本音を引き出すための仕掛けがあることが分かった。しかしこの結果からキャリアをつなげるためのヒントが多く見いだせおり興味深いと思った。

◆フリーディスカッションで参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- ・各診療科の時短の取り組みや、タスクシェアの具体例が大変参考になりました。
- ・働き方改革については、まだどの診療科も手探り状態なんだなと思いました。
- ・やはり仕事の割に人手が少ないことが休みを取りにくい一番の原因ということがわかりました。
- ・最初にご指名いただいたのに、デスクトップパソコンからの視聴でマイクの接続が出来ていなかったことから回答ができず申し訳ありませんでした。また、途中からの参加であったため、アンケートについて殆ど見ていなかったため、回答するのは難しい状況でした。
- ・経験からワークライフバランスの充実をはかるための方法はそれぞれもっているのだとわかりました。気軽に意見して導入を検討できる場があれば良いと思いました。
- ・支え合える社会に
- ・タスクシフトを増やしていけるとよい。医師の在宅勤務もあってよいのではないかな。
- ・留学時のお話で、イギリスでタスクシフトが徹底しているというお話があり、当院でも実施していきたいと感じました。
- ・タスクシフトをもっと実行するとそれぞれが本当に必要な仕事を効率よく行うことができると思いました。各科の実情をもっと知りたいと思いました。働き方改革は仕事の効率を良くすることが必要とされていると思います。職場で行わなければならない仕事以外にも仕事をしている実情があるので、在宅勤務がカウントされる必要があると思いました。
- ・もう少し、診療科における働き方改革の話ができればよかったと思いました。
- ・各部署で問題になっていることを共有する場としてとても良かったと思う。働き方改革が始まってどうですか？の発言に関しては、外勤が勤務時間としてみとめられない状況から、結果として勤務時間が長時間となり混乱を招いていること、それを解決するための在宅勤務の導入の提案、他の医療機関のとりくみも参考にしてみようか、等の意見が印象に残った。本当に職員が納得した働き方ができるためにはどうすればよいかを一緒に考えることが出来た。

◆「Jichi Joy Café」ご参加の感想や、今後に向けてメッセージがございましたらお書きください。

- ・ ひきつづきよろしくお願い致します。
- ・ また参加したいです。
- ・ 忙しいなか皆さん参加・協力いただいてありがたいですね。今後も地道な活動を続けていきましょう。
- ・ 私は事務職員ですが、以前、医師の働き方改革をテーマにしていたこともあり、医師の働き方について興味があり参加させていただき、ありがとうございました。以前のように集まっての開催の場合は事務には敷居が高く申し込み難かったのですが、今回のようにオンラインでの参加であれば、誰でも（ちょっと時間があれば）参加しやすいと思いました。アンケート結果を見ながらであれば、（配付可能な資料は）事前にデータでいただけると途中参加者も分かり易く、後から振り返って確認も出来るので、資料がある場合は資料配付もしていただけると助かります。今回の資料もいただけるのであれば嬉しいです。医師の方々がもう少し参加できると良いですね。主催者の皆さま、お疲れ様でした。
- ・ こういった貴重な場が増えれば良いと思います。
- ・ いつもありがとうございます。ぜひ適所で結果発表して、啓発になりますように
- ・ 対面での開催もよいのではないのでしょうか。
- ・ 働き方に関して具体的な取り組み、上手くいった例を紹介する場があるとよいと思います。
- ・ ビデオをオンにすると顔が見えるので参加している実感も湧いて良いと思いました。zoom は参加しやすいので、他職種を交えての会を垣根なく行うツールとして適しているかもしれません。
- ・ 今後も現場の声をひろいあげていくことや、部署や職種を越えて話し合う場を提供してほしい。